

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200036
法人名	有限会社 稲満会
事業所名	グループホーム うらら
所在地	鹿児島県霧島市国分下井2988番地 (電話) 0995-46-1778
自己評価作成日	平成28年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・国道より少し海岸側に入った田園地帯に立地しており、部屋によっては窓から桜島を望むことができる。周囲は季節の移り変わりを感じやすい場所で、徒歩圏内は海岸があり、散歩をするには恵まれた環境である。
- ・代表者が「ここではうららかに過ごしてほしい」という思いから「うらら」と名付けているため、スタッフ一同自宅と同じようにできるだけゆったりと笑顔で過ごしていただけるよう取り組んでいる。
- ・医療面では運営母体がなく独立型であるため、協力医療機関に緊急時の対応を依頼している。また、管理者をはじめ医療連携担当の看護師・介護スタッフの中の看護師の有資格者を中心に、全スタッフで協力しながら健康管理を行っている。
- ・食事面では社内に管理栄養士が在籍しており、管理者とともに季節やイベント事などを考慮したメニューを考えるなど栄養管理を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は同じ建物内に同法人デイサービスが併設され、同敷地に有料老人ホームがあり、互いに連携し協力関係にある。地域行事に会場提供したり、近隣住民との交流や連携もあり、地域に根差した福祉事業所である。
- ・自治会に加入し、役員も担い、認知症についての相談も受けたりしている。集落の班会や総会などに事業所を開放し地域と親しく交流している。
- ・災害対策として定期的な訓練を実施し、安全対策の設備整備もなされている。
- ・利用者が張り合いのある日々を過ごせるように、新聞購読や貼り絵など個々の力量に応じて支援している。
- ・代表者や管理者は職員育成に力を入れ、各種研修等への出席を奨励している。職員はケア対応等の更なる向上を目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を共有するために、目につく場所（玄関・ホール）に貼り出している。管理者を始めスタッフ一同、努力はしているが、理念の実践についてはなかなか思うようにいかなかったり、おろそかになってしまったりすることもある。	地域との関連性を重視した理念で、玄関やホールに掲示している。申し送り時に確認し、会議等で振り返り、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。理念の見直しも検討中である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、平成23年度は自治会長を務めた。自治会の行事(花見や総会など)に場所を提供することもある。運営推進会議には地域から公民館長・自治会長・老人クラブ会長・民生委員・消防団員に出席していただいている。先日は初午祭の馬踊りの来訪があり、近隣の方を招いた。	自治会に加入し地域の行事にホームの場所の提供をしている。役員を担い、運動会やいきいきサロンなど地域の行事に積極的に参加し、認知症についての相談に応じている。事業所の行事の花火大会などにも多くの地域の人々の参加があり、中学生の職場体験やボランティアの受け入れなども行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	何かイベントがある際は回覧板等で周知している。また、運営推進会議の際に地域代表の方にお話することもある。学生の実習受入れの際は初日に認知症について簡単に説明をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域役員、市職員、家族、家族会代表、地域包括支援センター職員、相談役、地区消防団に参加を依頼し定期的に開催できている。</p>	<p>会議は定期的に行っている。事業所の状況や外部評価の報告などを行い、意見を聞いている。地域消防団の協力で避難訓練を取り入れ、車椅子での段差の問題点などで具体的な助言が活かされている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>主に運営推進会議の際に意見を求めるなどしているが、疑問に思うことがあったりすると、その都度電話で問い合わせるなどしている。市の催し物がある時には参加するなどしている。</p>	<p>市担当者とは窓口に行き日頃から利用者の報告や連絡・相談を行い、アドバイスを貰っている。市主催の研修会や会議に参加し、ホームでの運営推進会議に参加してもらう等、日常的に連携がとれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>社内でガイドラインを定め、皆で身体拘束にならないようにアイデアを出し合っている。具体的な身体拘束の例はないが、厳密に言うと拘束と取れる言動などが出ていることもある。外傷や事故の恐れがある場合はリスクマネジメント（安全対策）とセットで考えている。センサーを導入するなど環境整備に取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルやガイドラインに沿って研修し、事例を出したり課題について職員の共通認識を図り、言葉の場合も含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠をせずに職員間の連携で安全な暮らしを支援している。近所の見守りもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>コンプライアンスルールの遵守に取り組んでおり、ホールの壁にも掲示している。またスタッフ各自、自分の言葉使いが虐待につながらないように努めている。昨年度資料などで高齢者虐待について紹介はしており、28年度で再度学ぶ機会を設けたい。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>27年に事業所内で資料を作成して学ぶ機会を設けた。スタッフの入れ替わりもあるので、勉強する機会を設けたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>初回契約時は、契約の際に分からないことを聞けるように、前もって契約書等の書類をお渡しして、目を通していただくようお願いしている。また、改定の際は全体に関わることなどは文書でお知らせして、その後改めて個別で直接説明をしたり、臨時の家族会を開催するようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。また、家族会を年2回開催し、ご家族のみで話し合う機会を設け、会長を通じて意見や要望を受けている。その他、運営推進会議に交代で家族代表として参加していただき、意見を述べる機会を設けている。いただいた意見についてはできる範囲で取り入れるように努めている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、家族からは家族会や運営推進会議の参加の折、思いを聞いている。面会も多く話しやすい雰囲気づくりを心がけ声かけをしている。外部に意見を表せることも入所時に説明している。家族の要望で足腰を鍛える作業療法などを取り入れている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	人がいるところでは言いにくいこともあるので、個別に声かけして意見や要望は聞いている。意見や要望があった場合は状況が許せば可能な限り意見を取り入れるように努めている。代表者の判断を要する場合は、代表者に報告し、判断を仰いでいる。	代表者や管理者は、職員とのコミュニケーションを図り、スタッフ会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与・賞与に関しては満額は難しいこともあるが、できる範囲内で還元できるように努めているとのこと。勤務や休暇の希望、有給休暇の取得に関しては、気持ちよく働けるように、業務に支障がない限りなるべく希望に添うように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>始良・伊佐地区グループホーム（以下GH）協議会の開催する研修に参加したりしている。また、人員などの条件が合えば、外部研修への参加を勧めている。社内研修については難しい面もあり、資料を作って各自目を通してもらうなどしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>始良・伊佐地区GH協議会が研修等開催して下さった場合はできるだけ現場スタッフで参加するようにしている。スタッフも他事業所の現状を知ることによって、自施設を見直すよい機会となっている様子。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも入居の不安を軽減するために、可能な限り入居前にはご本人の元に訪問して、顔を知ってもらう機会・話を伺う機会を設けている。また、スタッフも入居直後はできるだけ早く馴染むことができるように手厚く接するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に最低1回は施設を見ていただいている。また、契約前に書類をお渡しして契約書等に目を通す機会を設け、考える時間を作ることで、疑問点や希望・要望等を改めて確認できるようにしている。入居後はスタッフも面会時に情報交換をするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居問い合わせや初回面談の際に、GHの内容を説明し、ご本人の状況を確認した上で他のサービスがよいのではと思われる時には、（積極的なリハビリを希望している場合は老健を勧めたりするなど）他のサービスや他事業所を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寝たきりの方には難しい面もあるが、掃除や洗濯物干し等を一緒にしたり、食事の下ごしらえ、お椀やお盆拭きなどを依頼し、スタッフと利用者が分担して作業をするなど、お互いに信頼して家事をしている。スタッフもお客様というより家族の一員として接している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はスタッフが必ず声をかけるようにしていると同時に、お茶を出して自室で家族だけの時間をゆっくりと過ごせるように配慮している。また、管理者にて日頃の生活の様子を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人・ご家族の了解があれば、馴染みの方の面会も受け入れている。また、外出泊等で自宅に帰る機会を設けることも積極的に奨励している。入居前に併設のデイサービス（以下D S）を利用していただ方やD Sに友人が来ている場合は、日中D Sで過ごしていただくこともある。	家族や馴染みの知人の訪問を奨励し、居室を開放してお茶を出すなどして継続の関係が途切れないよう配慮している。併設デイサービスの知人との交流も支援している。手紙や電話の取次ぎなども行っている。家族の協力を得て、帰宅や墓参なども支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で関わり合えるようなレクリエーションや体操を実施している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主な取り組みとしては、年賀状など文書でのやりとりを継続している。また、相談があった場合は相談を受けるように努めている。ご本人の退居後も、踊りのボランティアでホームに来所されるご家族の方もいらっしゃる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	面と向かっては表現されない方もいらっしゃるので、日常会話等からも本人の意向を汲むようにしている。職員に話さなくてもご家族に話すこともあり、ご家族から情報を得ることもある。それでも困難な場合は表情や言動などから汲むように心がけている。	入居時に本人や家族から思いや意向を聞いている。日々の会話の中から、希望を聞いたり、表情などから意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族から意見を聞いたり、表情や頷き等、職員で押し量り、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族・担当ケアマネ（または施設・病院の担当者）等から話を聞き、情報をスタッフ間で共有することで本人らしい生活が維持できるように支援し、スムーズにGHでの生活に移行できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にご本人やご家族・担当ケアマネ（入院・入所している場合は担当のスタッフ）などから話を聞き、状態の把握に努めている。入居後はこまめに記録することでスタッフ全員が現状を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を確認するとともに、スタッフに日常の様子や留意点などを確認して計画を作成している。モニタリングに関しては経過記録を参照したりスタッフから情報収集したりすることで定期的実施し、必要時は計画の内容を変更している。	本人や家族の意向を確認し、主治医の意見も取り入れ、個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にその日の様子などの経過を記録するようにしている。記録用紙はそれぞれ個人別にファイルで綴じており、ファイルを見ればその方の経過が誰でも分かるようにしている。介護計画の見直しや作成にも有効的に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合が合わない場合は受診にお連れしたり、病院等の入退院時の送迎をしたりしている。ご本人・ご家族だけの受診が不安な場合は付き添いもしている。また、併設のDSに知人が来ている場合にはDSで過ごしていただいたりしている。面会時に希望されれば、一緒に食事を摂っていただくことも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣中学校の職場体験学習や看護専門学校での現場実習を積極的に受け入れている。学生と一緒に家事やレクリエーションをしたり、学生に昔の話をしたりすることで利用者の潜在能力を生かせるように取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医を受診していただいている。本人・家族にて受診が困難な方や希望があった方については協力医療機関の往診を受けることができるようにしている。協力医療機関には急変時にもすぐ対応していただけるようお願いしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。週2回協力医療機関の往診がある。他科受診には必要に応じて職員が支援し、結果は家族に報告している。緊急時の対応は24時間医療連携体制が整っている。適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関に対して窓口担当となる施設長や看護師・介護スタッフが情報交換を密に行い、適切な受診や看護を受けられるように努めている。介護スタッフにも看護師の有資格者が複数名おり、窓口担当の看護師をフォローするなど協力している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関に対しての窓口（施設長・看護師）を決めており、窓口担当が主に病院関係者とやりとりを行うようにしている。情報提供書などを活用し、スムーズに連携を図ることができるように努めているが、時折医療機関とのコミュニケーションや情報交換がうまくいかないこともある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の段階で意向を確認しているが、現実的な問題となった時点で改めて意向を確認し、ご本人やご家族が望む場所で生活できるように支援している。看取り介護も実施している。</p>	<p>契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意書を貰っている。状況変化に伴い随時話し合い、主治医や関係者の連携のもと家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。看取りの事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年に1回は消防訓練時に消防局から心肺蘇生・応急手当・AED講習等の指導を受けているが、実践に不安があるという声もある。回数を重ね、少しでも慣れて、有事に落ち着いて対処できるように取り組んでいきたい。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>法人全体で地域の消防団にも参加して頂き施設の見学や避難訓練を実施している。</p>	<p>火災・地震・水害等の災害マニュアルがある。年2回の消防署立会いのもと、昼夜想定避難訓練を実施している。津波対策や救命胴着の準備など防災設備も整備されている。運営推進会議の参加者も一緒に訓練をしている。地域住民との協力体制もできている。災害時の水や米・菓子類・冷凍食品も1週間分備蓄されている。避難場所も決めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>コンプライアンスルールの遵守に取り組んでおり、認知症ケアの心得と共にホールの壁に掲示している。医療機関への情報提供や社内紙における写真掲載等、プライバシーに関わることについては入居時にそれぞれ同意を得ている。時折言葉使いが乱れることがあるので、各人が気をつける必要がある。</p>	<p>日々のかかわりの中で利用者の尊厳とプライバシーを重視したケアに取り組み、「認知症ケアの心得」をホールに掲示している。言葉かけにも注意し、トイレ誘導やオムツ交換、個室の入室などの際にはプライドを損なわない対応を行っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の意向を聞いたり、選択肢を示してその中から選択していただいたり、自己決定できるように努めてはいる。安全や健康状態を考慮した場合や、認知機能の低下が著明な方が明らかに妥当でない判断をされる時はスタッフ主導で決定せざるを得ないこともある。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>なるべくその人らしく過ごせるように努めているが、重介護者や無断離所の可能性がある方や歩行が不安定で目が離せない方がいるため、希望に添えないことも多い。スタッフの都合に合わせていただいていることもある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝夕メリハリをつけるため、更衣をしている。服を選ぶことができる方は確認を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者のADLに合わせて食事形態を考慮し提供できている。また、生活リハビリとしても出来る調理や準備、片付けも一緒に行っている。	嗜好調査を行い、利用者の好みや季節に配慮して管理栄養士と共に職員が献立や食事形態を工夫している。利用者の個々の力量に応じて食事の準備や片づけを職員と一緒にしている。誕生会や行事食、外食など食事が楽しみなものになるよう工夫している。弁当持って海浜公園に行ったり、有料老人ホームの利用者との食事交流会もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表、食事摂取チェック表にて摂取状況を確認し支援している。水分の目安は12～300cc/日		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後声かけ、支援にて実施。定期的（1日おき）に洗剤等を使用し、清潔を保っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、時間を見て声かけやトイレ誘導を行い、自然な排泄ができるように取り組んでいる。夜間は排泄より、ゆっくり眠っていただくことを優先しているが、状態に合わせてポータブルトイレ等を活用し、できるだけおむつに頼らないように努めている。	排泄パターンや習慣を把握し、排泄チェック表で個々に合わせて声かけや誘導によるトイレでの排泄を大切にしている。基本はトイレでの排泄である。看とりの利用者以外は全員リハビリパンツで、自立している。おむつを減らす取り組みや排泄の自立を支援しリハビリパンツの料金が安価になって喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳と乳酸菌飲料を提供すると同時に、水分摂取量が確保できるように取り組んでいる。また、排泄チェック表にて排便パターンの把握に努めている。それでも難しい場合は下剤・浣腸などを使用している。運動量の確保についてはもう少し工夫が必要。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1日おきに入浴できるようにしている。希望時は状況が許せば入れるようにしており、入りたくない場合はあまり無理強いはいしない。入りたい時にいつでもというわけにはいかないが、スタッフの人員が確保できている時間帯ならなるべく希望に添うようにしている。	基本的には隔日入浴であるが本人が希望すれば毎日入浴も可能である。併設のデイサービスセンターのかけ流しの温泉に出かけたりして、入浴を楽しめるように支援している。入浴をいやがる利用者にはタイミングを見ながら対応しているが、浴槽に入ると全員喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時消灯とはしているが、本人が休みたい時に休んでいただいている。起床時間に関しても、熟睡している場合は基本的に自然に覚醒するまで様子を見ている。また、室温調整をするなど、安眠できるようにスタッフで配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳にそれぞれ薬の説明書を綴っており、目を通せるようにしている。また、内服の追加や変更などがあつた場合は、看護師より口頭・申し送りノートなどでスタッフに周知している。また、施設長にて少しでも薬の量が減らせるように主治医に相談しながら援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人の状態に合わせて、ホールの床掃除（シートがけ）、お椀・お盆拭き、洗濯物の取り込みや洗濯物たたみ等を依頼し、それぞれの役割として家事の手伝いをお願いしている。楽しみごとに対してはそれぞれの好みを考慮したレクリエーションを提供するように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりのその時の気分に応じて、玄関先で外気に触れる機会は作っているが、外出の支援をするのは現実的に難しい状況。スタッフの人員に余裕がある場合は近隣の散歩や、ドライブなどをしている。イベントとして外食の機会も設けているが、日常的な外出の頻度を増やせるように工夫が必要。	日常的に個々の希望を聞いて外気浴や散歩を行っている。計画を立てて花見やドライブ・霧島神宮・海浜公園などに出かけている。全員一緒の遠出は困難になってきているので、家族の協力をもらいながら花見や紅葉狩り・梅見・初詣に出かけている。個人的に家族が墓参りや外食等に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>トラブル防止のため基本的に金銭は事務所預かりとしている。手元に持っていないと落ち着かないという方に関しては紛失しても責任を問わないという条件で小遣い程度のお金を了承している。ただし、買物等で外出した時は所持金で欲しい物を購入できるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>最近はありませんが、ご本人が希望される時には電話ができるように支援している。以前は県外の友人に文通のような形ではがきや手紙でやりとりをしている方もいらっしゃった。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関には季節に合わせた花や置物などを飾り、ホールには貼り絵（皆で取り組んでいる）を飾ることで季節感を味わえるように努めている。また、落ち着いて過ごせるように大幅な模様替えをしないように心がけている。トイレなどの照明が自動であるため、そのことで不穏になる方もいらっしゃるが、その都度説明している。</p>	<p>ホールは天井が高く窓も大きく周囲には田園が広がり桜島も見え開放感がある。採光や換気、温度・湿度に配慮し清潔である。空気清浄機が機能している。ベランダは庭に繋がっている。玄関は広く雛飾りや色々なお花がいっぱい飾られている。トイレも広々として3ヶ所あり、浴室も清潔である、畳の間やソファでの好きな場所で利用者はくつろいでいる。ホールには利用者と一緒に作った貼り絵もあり、居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに置いているソファに座って仲の良い方同士で談笑したり、畳のベンチで2～3名で会話しながら洗濯物たたみをしていただいたりしている。ソファはテーブルの斜め後方に置いており、他者と距離を置きたい時・一人になりたい時などにも利用している。中にはそれぞれの居室で談笑される方もいらっしゃる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持ちこむように働きかけているが、家具に関してはプラスチック製の収納ケースなどを持ち込まれる方が多い。過去には鏡台やキーボード、家族の写真や遺影を持ち込んでいる方もいらっしゃった。スタッフとしては家族の写真を飾るなどして工夫している。	居室はベッドや机・棚が設置されて、部屋は大きな窓とベランダがあり、鉢物や趣味のものが置かれている。寝具や収納ケース・ラジオ・花鉢・写真などの馴染みの物を持ち込んで居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体はバリアフリー構造。その方に合わせてベッド柵や介助バー、コールマット及びワイヤレスチャイムを利用したり、トイレの扉に貼り紙をしたりして、その方の残存能力が最大限活かせるように、かつ安全に過ごせるようにスタッフで検討して環境を整えている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない